

強者の戦略

第14回 南

～就職活動(2)～

こんにちは！地理の南です。今回は、就職活動の結果、とりあえず研伸館から内定をもらえた話までしましたね。しかし、私は音楽業界やテレビ業界の活動が継続していたので、即座に研伸館さんにお世話になりますと伝えることはできませんでした。就職活動の結果いくつか内定をもらい、最終的に一つの企業に絞って就職をしていくことが普通の流れなはずですから、致し方ないことだと思います。では、他の企業の話をしてまいりましょう。

まずは WOWOW から。この企業のいいところは、エントリーシート段階で選考を終了することがない点です。全員と個人面接をしてもらえます(当時は、ですよ。今は知りませんが…)。でも、面接場所は東京の WOWOW の本社になっているんです。関西勢からすると、就職活動時期は東京へ説明会や面接を受けに行かなければならないので、時間・体力・財力が搾り取られていきます。新幹線の中でエントリーシートを書き上げるということも必要になってきます。そして、こんな車中での癒しは車内販売でやってきていただけるレディボーデンのアイスクリームさんです♪キンキンに冷え固まったアイスに付けられるなよなよしたプラスチック製のスプーンはそれはそれは頼りなく、手のひらの温もりで縁のアイスを溶かしながらゆるゆると食べざるを得ないので、心無い面接官の発言に気落ちするやさぐれた心は、一口一口食べ進めるうちに波一つ立たない湖面のごとく、明鏡止水の境地へと変貌してしまいました。アイスクリームで人は救えますね(笑)。ちょっと別な話になりましたが、WOWOW の面接自体はなごやかに終了しました。WOWOW オリジナルのドラマのクオリティの高さ、他局に先駆けて前田日明の格闘技団体「RINGS」を放映した先鋭性などに触れ、自分自身が作りたい番組などの話をしたいと思います。次の選考に進めるだろうな一っと勝手に思っていました。結果は落選でした。うーん、何なんでしょうねー。就職活動で落とされるときって理由が明確でないから困りますよね。入試だったら成

績開示で点数が分かるじゃないですか。でも、企業に落とされるということは、どういう点が悪かったかがはっきりしないんですよね。自分の能力が低かったのか、他の学生の能力が高かったのか、自分の望む仕事が企業にとって興味がないことなのか、などなどが分からないからです。一応、ウェブなどで企業の理念や推進していることは調べて行くのですが。まあ、落とされた時の気分転換にこう思うようにしていました、「南を落とすなんて、この企業の未来も大したことがなくなったな」と(笑)。

面接で落とされてしまったので、ちょっと面接練習した方がいいかなと思って、リクルートを受けてみました。巷では、「リクルートは筆記試験は全員合格して、とりあえず面接はしてくれるらしい」と言われていたので、ちょうどいい機会だから、リクルートが何をしているかまったく知らないながら、筆記試験を受けてみました。普通の企業に就職しようと思ったら、説明会の後に、筆記試験があることが多いです。時事問題や一般教養などが問われます。書店に行けばそれなりに参考書は充実しているので、対策はやる気があればできるでしょう。私もそこそこやっていました。芥川賞や直木賞作家の作家名と受賞作品を覚えたりとかね。この経験があったために、芥川賞や直木賞作家の本をよく読むようになりました。で、リクルートの筆記試験を受けたら、自己採点的に超高得点で、会場にいる誰よりも点数が高いなと勝手に思い込みました。ご満悦した気分になっていた時に、さらにパーソナルシート的なものを書けと告げられます。“何やねんそれは”と半ばいらっとしつつも、紙を見ると、たわいもない性格クイズがいっぱい並んでいます。「あなたは人と一緒に何かするのが 大変好きだ やや好きだ 普通 ややきらいだ 大変きらいだ」みたいな文章が並んでいて、一つだけに○をつけていくというものです。ここでは当然、「大変好きだ」を選ぶべきですが、それでは何にも面白くないなと思ったので、絶対選んではいけない選択肢ばかり○をしていきました。だ

強者の戦略

って、全員面接に行けると信じていたからです。ところが、合格の電話は指定期日までに掛かってくることはありませんでした…。みなさん、就職活動をなめてはいけません(笑)。

次は、テレビ業界に参りましょう。ABC 朝日放送は、どうなったのかあんまり記憶がありません。エントリーシートで落とされたのか、筆記で落とされたのか忘れました。面接まで行けなかったことは確かです。「新しい漢字を考案しなさい」「いま頭にきていることを書きなさい」といった指示だけ覚えていきます。

MBS 毎日放送は、まずエントリーシートに合格します。この段階でも結構落とされたそうです。塾講師をしていた友人が落とされていました。私は、「私はボケとツッコミで構成された人間です。…」とか 800 字書いて合格しました。次に、筆記試験になります。恐らく、テレビ業界や音楽業界はクリエイティブ試験をクリアできないと選考が進まないと思います。MBS の筆記試験のお題は「MBS は千里に結構広い土地を持っている。この土地を有効活用して MBS に多大な利益をもたらす計画を 2000 字で述べよ」でした。時間は 45 分ぐらいだったと思います。私は、吉本新喜劇のアミューズメントパークを作りたいと書いたと思います。吉本新喜劇の台本があって、観光客がある程度集まったら台本通り演じて、それが録画されていて終了時には DVD をもらえる、みたいなことを書いたと思います。まあ、こんなことで莫大な利益が MBS に転がり込むことはないと思いますが、この選考も切り抜けることができました。さて、個人面接がやってきました。ここはめっちゃ困りましたね～。MBS に入社したい理由が全然思い浮かばないんですよ。NHK と MBS の違いは、全国規模かローカルかの違いです。私は、大規模な予算を使って全国、全世界をまたにかけるようなドキュメンタリー番組を作りたいので NHK を志望していたわけで、ちょっとの予算でローカルな番組を作る MBS には、よくよく考えると行きたい

わけではないなーと結論付けてしまいました。でもね、本社に向かう JR の車中、本社に向かう道、ざーっと志望理由だけ考え続けました。結局、何を言うかも決まらないままに、大きな部屋に通されます。そこには面接ブースが 3～4 個あったかな。結構な人が面接している風景を見ることができます。自分が並んでいる列が少しずつ前に進んで行って、ついに自分の面接の番が来ました。そして、面接官に「まず志望理由から言ってもらえるかな」と言われます。たぶん、「面白い番組を作ろうと思って御社に志望しました」とか答えたんだと思います。その後は、

面接官：「君の作りたい面白い番組って一体どんな感じなの？」

南：「吉本の芸人の人が大学に行って、素人の人と一緒に何かするような番組です。」

面接官：「それって面白いの？」

南：「素人の人の面白さを引き出せば大丈夫だと思います。」

面接官：「そうなのかなあ。君自身は面白い人間なの？そうは見えないけどね～。話を変えるけど、中国語と韓国語、すごく達者みたいだけど、苦労した点とかあるの？」

南：「いや、普通に努力すれば書けるし、話せるようにもなると思います。」

ってな感じです。適当に作った志望理由、さらにそれに突っ込まれて顔面蒼白で、まともに目を見て話せなかったと思います。語学のことで助け舟を出してくれているのに、“普通にできる”とか興ざめなことも言ってしまいました。当然ながら、この時点で落第です。ただ、個人面接まで来て、いいことに気づきました。周りの人の能力が非常に高そうなのです。面接の後に、そのへんにいる人と会話して、「この放送局とか回ってるの～」とか聞くと、さわやかな笑顔・分かりやすい話し方・謙虚な姿勢をみんな持っているのです！エントリーシートや筆記試験などを通過して、選考が進んでくると、やっぱり優

強者の戦略

秀な人が残ってくるんだなーと思いました。能力は高いので、あとは、本人のやりたいことと企業が求めていることが一致すれば就職につながるんだと思います。極端な話、東大理三に合格されるような人は、それはそれは優秀ですけど、本人のやりたいことは医学なわけですから、関係のない企業に入ってもやる気を失って利益を生み出す存在にはならないですよ。だから、最終選考まで行って落とされるって話があると思いますけど、微妙に本人と企業の意思がかみ合わなかったんでしょうね。そういう風に思えるようになったのは自分にとってプラスでした。

そして、NHK なき後、最後の砦はエイベックスです。私は、2000年に入ったあたりからC-POP、K-POPに造詣が深くなり、アジアをまたにかけた音楽プロデュースをしたいとも考えるようになりました(「冬ソナ」前から南には韓流ブームが起きていたのですよ)。中国語も韓国語もそこそこ話せますしね。そんな私の希望に沿った企業がエイベックスでした。ここにはアジアマーケティング科がありました。ここで自分の能力を発揮したいと思い、志望したわけです。今回の志望理由は確固たるものがあります。エントリーシートを難なく切り抜け、ZEPP 東京(お台場)で筆記試験を迎えます。お題は、「空き缶の新しい利用方法を思いつくだけ書きなさい(5分)」→「普通の信号は3色で“進め・注意・止まれ”の指示であるが、もし7色の信号があったとすると、その色と指示を述べよ(5分)」というものでした。エイベックスの発売したてのトランスのCDトラックが結構な大きさと響きながらの試験です。与えられた時間の短さに驚愕しつつも、最初の問いに「耳あて、糸電話、水着…」とか8つぐらい書いて終了。二つ目の問いには電車内の携帯電話のマナーについて、“電源切る・電源つけていいけど何もしない・来たメールは見てよし・メールを返信してよし・メールを打ってよし・来た電話に出てよし・自分から電話かけてよし”の7つの指示を書きました。まあま

あの解答ができたことに満足し、一瞬で地元関西に戻ります。そして、この選考を乗り越えて、1週間後ぐらいに東京のベルファールにまた呼び出され、いつもはみんな踊り狂ってるんじゃないのかと思うような場所でグループ討論になりました。参加者は女子2人男子4人の計6人、お題は「みなさんの乗った飛行機はサハラ砂漠に不時着しました。一番近い都市に行くにも一昼夜かかります。機内に残っていたアイテムは7つあります。これからみなさんで議論して、生き残るために必要な最重要アイテムを一つに絞ってください」というものでした。私の隣には京都からやってきていた男子学生がおり、この人物が最初に「じゃあみんな、このアイテムがいると思う人、手を挙げて〜」と話し始めました。この後、議論は楽しい感じに盛り上がり、討論後にみんなケーキを食べるほど仲良くなりました。そして1週間後。エイベックスから通知が届きます。結果は不合格でした。この6人のグループからは、さきほど話に出た京都の学生が次の選考に進んだそうです。この経験で学んだことは、企業はリーダーシップを発揮する学生を求めているということです。みなさんも、最初に声を上げる人物になるべきでしょう。この後、私は、研伸館にお世話になることを決めました。

次回の最終回は、修士論文作成について話をしていきます。